

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 016	提案機関名 相模原市農業協同組合
要望問題名 大和芋切種子（小切片）の保存方法試験	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】  大和芋の種芋及び土壌消毒資材や肥料等の高騰により農家経営の圧迫が懸念されているが、近年、丸種芋の栽培により種芋代の低減を目指している。 農協が丸種芋を生産し、生産者に配布できれば、種芋代の低減につながるが、丸種芋の大量生産をする上で、短期間に小切片にする作業の時間的・人力的制約がネックとなる。そこで、3～5ヶ月程前から作業した場合の冷蔵庫保管による方法（温度・湿度等）の確立をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="radio"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="radio"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	北相地区事務所
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) II-4(1)ア ヤマトイモの種イモ生産技術の確立			
対応の内容等 ヤマトイモの種イモの保存では、一般に切りイモの地下埋設が行われていますが、このような環境では10～15℃程度の一定温度で比較的高い湿度に保たれます。一方、過去のヤマイモの商品としての保存試験では、凍結温度が-1.37℃と低く、0℃の温度設定が長期保存に最も有利とされ、湿度環境についてはイモの乾燥を防ぐために高い湿度が良いとされています。しかし、ジャガイモでは、2℃以下の低温貯蔵下では萌芽不良が起こるとされ、また、低温下ででんぷんの糖化が進む現象（低温糖化）も知られており、同様のことはヤマトイモでも起こり得るため、植え付け後の環境適応性や出芽への影響を考慮する必要があると有ります。このようなことから、0℃から15℃の間のどこかに最適な温度設定があると思われ、この適温を見定めることが必要になると思われます。現在、実施中の予備的な検討結果を踏まえ、令和8年度から湿度を保った条件下で温度設定を変えた比較試験を実施し、種イモ切断時期ごとの、植え付けおよび定植適期の出芽率や出芽揃いへの影響を試験します。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			